

薬剤耐性

ウイルスに 抗菌薬は 効きません。

薬剤耐性 (AMR) とは

感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです

「かぜ」の原因は「ウイルス」です
抗菌薬は「かぜ」の時にのんでも効果はありません
自己判断でのんだり、医師の処方を守らないと薬の効果がないだけでなく
副作用が出たり「薬剤耐性菌」が生じて
感染症の治療や予防の妨げになることがあります



はたらく細胞

© 渡米真 / 講談社・アニプレックス・davidproduction

AMR 臨床リファレンスセンター
Antimicrobial Resistance Clinical Reference Center
厚生労働省特命事業



ウイルスに 抗菌薬は効きません

細菌とウイルスは どこが違うの？

細菌もウイルスも日常では目に見えない小さな生物です。小さいながらも、これらは、大きさ、からだのつくり、増え方が違う、まったく異なる生き物です。細菌もウイルスも人に感染しますが、すべての細菌やウイルスが病気を起こすわけではありません。

細菌

大きさ ミクロン
0.001mm(1μ)程度



自分の仕組みの中で分裂して増える
細菌による病気
肺炎、中耳炎、膀胱炎など
※これらはウイルスが原因となることもあります

ウイルス

大きさ ミクロン
0.00001-0.0001mm
(0.01-0.1μ)程度



他の生物の細胞を利用して増える
ウイルスによる病気
かぜ(感冒)、インフルエンザ、
風疹など

「抗菌薬」は「細菌」に対抗するために作られた薬です かぜの原因はウイルスです! 抗菌薬は効きません

「かぜをひいたからお医者さんで抗菌薬(抗生物質)をもらって早く治そう……」
そんなふうに思ったことはありませんか。

かぜやインフルエンザの原因はほとんどがウイルスです。
抗菌薬は細菌に効果がある薬なので、ウイルスが原因となるかぜにはまったく効果がありません。
かぜのときに抗菌薬をのんでよくなってきたなと感じたなら、それは抗菌薬の効果ではなく、
あなた自身の免疫でウイルスをやっつけたからかもしれません。

抗菌薬を正しくのまないで… 副作用が出たり、薬剤耐性菌が 増える原因になります

薬剤耐性菌が増えると、
本当に必要な時に抗菌薬の効果が得られなくなります。
そうすると、感染症の治療や手術時の感染予防が難しくなるだけでなく、
臓器移植、抗がん剤治療など、さまざまな医療が困難となりかねません。



副作用

下痢・嘔吐・発疹などの
副作用を起こすことがあります



薬剤耐性へのリスク

必要のない抗菌薬の服用は
薬剤耐性菌の発生につながります



抗菌薬の効果

薬剤耐性菌が増えると
医療が難しくなります



感染症の病気が治りにくくなる
病気に効果が見込まれる薬の種類が
少なく、治療に時間がかかります



さまざまな医療が困難になる
抗菌薬が効かないと感染症の予防や
治療が難しくなり、さまざまな医療を
安全に行えなくなってしまう

ません。



薬剤耐性菌とは？

私たちの皮膚や腸などの体の中には、無数の細菌(常在菌)が共生し、健康が保たれています。この中に抗菌薬が効かない細菌(=薬剤耐性菌)がわずかながらいることがあります。外から細菌が体に入って病気を引き起こした時に、治療のため抗菌薬をのむと、病気の原因となる細菌と共に常在菌も一緒に排除されて、薬剤耐性菌が残ることがあります。他の菌がいなくなると、薬剤耐性菌には棲みやすい環境になって増えることができます。

▼ 薬剤耐性菌が増える仕組み ▼



薬剤耐性は世界規模で取り組んでいる課題です

薬剤耐性菌は世界中で問題となっています。このまま何の対策も講じなければ、アジア・アフリカを中心に年間1,000万人が死亡するという状況が予測されています。

一方で近年、新しい抗菌薬はなかなか開発されなくなっています。数十年後には、抗菌薬が効かない菌が世の中に蔓延してしまう恐れがあります。世界保健機関(WHO)では、2015年に薬剤耐性に関する国際行動計画が採択され、日本でも2016年から始まった薬剤耐性(AMR)対策アクションプランは2023年に新たに取りまとめられ、薬剤耐性に対する取り組みはひき続き行われています。

* <https://news.un.org/en/story/2019/04/1037471>
No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections
Report to the Secretary-General of the United Nations April 2019



人だけの問題ではありません

抗菌薬は人や動物の医療以外にも、畜産、水産、農産物などあらゆる領域で使われています。薬剤耐性微生物は人から人だけではなく、食品や環境などを介して人へ伝播する可能性や、また逆に人から動物や環境に伝播することも指摘されています。人の健康だけでなく、動物の健康や環境の保全にも気を配ることが大切です。それらに関わるさまざまな分野の人々が連携して課題解決に取り組んでいくことを「ワンヘルス・アプローチ」といいます。



薬剤耐性菌を増やさないために



不必要な時に抗菌薬をのまない

抗菌薬はかぜを治す万能薬ではありません。
かぜやインフルエンザの原因となるウイルスに、
抗菌薬はそもそも効果がありません。
必要のない抗菌薬を求めないようにしましょう。
わからないことは、お医者さんか薬剤師さんに聞きましょう。

抗菌薬を処方されたらきちんとのみましょう

お医者さんはあなたの体に合わせた抗菌薬を処方しています。
処方された抗菌薬は、お医者さんの指示どおりにのみましょう。
とっておいて、別の機会にのんではいけません。
また、他の人の抗菌薬をもらったり、あげたりしてはいけません。

感染症を防ぎましょう ◆日頃からの体調管理と予防が大切です

正しい手洗い

◆ 石けんと水でよく洗いましょう。アルコール性の手指消毒剤も有効です。

咳エチケット

◆ 咳やくしゃみのしぶきがとばないようにマスクをきちんとつけましょう。
マスクがない時はハンカチや袖の内側で口や鼻を覆いましょう。

ワクチン接種

◆ 感染症には、ワクチンで予防できるものがあります。



— 未来に使える抗菌薬を残すことが、今の私たちに課せられています —

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院



AMR 臨床リファレンスセンター

Antimicrobial Resistance Clinical Reference Center
厚生労働省委託事業

AMR臨床リファレンスセンターは、「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」に基づく取り組みを推進するため厚生労働省委託事業として2017年4月に設立しました。
センターでは薬剤耐性対策や抗菌薬の適正使用活動に生かせるデータを提供すると共に、広く一般の方にも抗菌薬や薬剤耐性を知っていただくための広報を行っています。